

日本におけるプロスポーツクラブの新たな資金調達 ～Jリーグに焦点を当てて～

杉本龍勇ゼミ①、志崎拓八 *

岡田壮平

遠山萌子

米永華菜

<論文要旨>

資金力のある会社が内部組織としてスポーツ部門を有する「企業スポーツ」は、1990年以降には、廃部が相次いでいた。こうした状況を背景に、財務的自立を目的として、会社形態のスポーツ組織が設立されるようになった。その最たる例が、Jリーグである。

しかし、本年度で開幕22年を迎えたJリーグには財政難に陥るチームが存在することも事実である。スポーツ組織が、その存在意義や理念を実現させるために、独力にて事業を運営し、継続的な経営を行うことは不可欠である。つまり、資金調達方法を多様化し、その財政を健全化させることが必要なのである。そこで本稿では、その手段としてスタジアム管理に焦点を当てた。スタジアムをクラブで管理することで新たな利益を創出する。また、そのコストを株式市場への上場によって得た資金で賄うことができるのかどうかについて考察を行った。方法としては、日本における市場構造及びその機能を明確化し、メリット、デメリットを区分けすることで、上場する市場を選定する。選定した市場における上場基準への考慮、先行的に上場を実施している欧州との比較等を行い、Jリーグクラブチームが一企業として上場し得るのかどうかに言及する。さらに、その資金をスタジアム管理に運用し、新たな利益創出による財政問題解決が可能であるのかどうかを検証した。

以上の分析により、財政健全化のための資金運用によって、新たな利益創出を望むことができ、またその資金は調達した資金で補うことができると結論付けた。